

わたし考一さんが大阪市長選挙出馬中止を表明

独裁政治ストップに頑張ります

わたし考一さんは、五日午後六時半から記者会見を行い、市長選挙への出馬中止を表明。立場の違いを超えて、「橋下独裁ストップ」の一点で府民的な共同の先頭に立つ決意を表明しました。

橋下市長では、大阪市から民主主義はなくなり、くらしはこわされます

わたし考一さんが出馬を中止してまで、橋下市長実現をストップさせようというのは、橋下氏がいままででない、強権的な独裁政治家とも言うべき危険性をもっているからです。

「政治は独裁」と公言

橋下氏は、「日本の政治のなかで一番重要なのは独裁」と公言。反対する勢力を「政敵」として徹底批判し、「僕の場合というものは府民感覚だ」と居直り、「選挙で勝てればなんでもできる」とばかりに、WTC府庁移転や「君が代」強制条例など公約にもないものを強行する手法は、かつてヒトラーも使った独裁者の手口そのものです。

教育支配が目的 教育基本条例

教育基本条例案は、知事が教育目標を決め、目標を実現できない教育委員は首にするというもの。憲法が禁止する政治の教育介入そのものです。

税金取り上げムダな開発に 大阪都

「大阪都構想」の目的は、高速道路などの大型開発やカジノ構想に住民の税金を思い切ったつぎ込むこと、そのために大阪府と大阪市の権限や予算を、司令官一人が握る独裁体制をつくることです。「維新の会」は、福祉やくらしを支える仕事は、何も考えていません。国保料の2万円以上の値上げや、公営住宅を半分に減らすことまでねらっています。

「橋下市長」では、このように、大阪市の民主主義もくらしも台無しです。なんとしてもストップしましょう。

「大阪市をよくする会」機関紙
06-6136-1923
2011年11月5日
発行 第361号



大阪市長選挙への出馬中止とファッショ・独裁政治をくいとめる決意について

二〇一一年十一月五日

わたし考

私は今回の大阪市長選挙への立候補を中止する事をここに明らかに致します。理由は大阪からファシズムの台頭を許してはならないという大阪市民のみならず全国の声を活かすにはこれしかないという結論に至ったからであります。私の一生にとって非常に重い決断でもありましたが、出馬表明以来たくさんの方々の物心両面での支援を受け、市政に対する願いや要求を頂いた事に感謝をしつつ、この決断が独裁政治を阻止し、私たちの要求実現への道をきりひらいていくための現時点で最善の判断だと確信するものであります。

現大阪市政の評価について、私が今まで述べてきた、暮らしに対する問題や巨大開発のあり方についてこれを変えるものではありませんが、少なくとも平松氏は「維新の会」の独裁的なやり方を批判し、大阪市の税金を「むしり取る」「大阪都」構想や教育基本条例に反対の態度を明らかにされています。私は平松氏が今後ともこうした立場を堅持されることを願い、今回選挙戦では独自の立場から支援してまいります。

大阪府知事選挙では、橋下・「大阪維新の会」の野望に毅然と対決することを明らかにしているのは、明るい会の梅田章二さんただ一人であり、私は梅田さんとともにあらゆる努力を尽くす決意です。

私の出馬表明から2ヵ月、大阪市長選挙、大阪府知事選挙をめぐる様相は大きく変化してきました。

22日未明に大阪府知事を辞任表明して大阪市長選挙に名乗りをあげた橋下徹氏は、翌日のなんばでの街頭演説で、「ものすごい権力闘争」をやって「日本のシステムを変える」と豪語し、大阪府に続き“大阪市のつとり”をはかることが市長選挙の目的だとうたいました。彼は「一人の指揮官」で何でもやりたい放題の「大阪都」づくり、そして憲法をじゅうりんし、教育に政治介入し、子どもと教職員に強制を持ち込む「教育基本条例案」を最大の焦点だとし、橋下氏と「大阪維新の会」による独裁政治をつくりあげると宣言しています。さらに、大阪を足場に「首相公選制」をはじめ国政進出への野望もあらわに述べました。

大阪に独裁政治の誕生を許せば、それを拠点として、今の政治状況を反動的に打開しようとする衝動が強まる危険もあり、日本の政治にも重大な影響を与えることとなります。いまこのたくらみをくいとめるための、市民の共同が何よりも大事になっています。

いま、こうした橋下氏と「大阪維新の会」のファッショ・独裁の本性が見抜かれはじめ、府民のみならず、全国から大きな危ぐと怒りの声がわきおこりつつあります。私は、このことに市民のみなさん方の良識を感じ取っています。

なかでも橋下氏が「教育は強制」とあからさまにつきつける「教育基本条例案」に対して、教育界の総反撃が始まっています。府教委は全員連名でアピールを出し、「白紙撤回されるべき」であり、「これが可決されれば、私たち教育委員は総辞職する」と述べました。府立高校PTA協議会の「嘆願書」では「大阪は庶民の街」「いろいろな意見があるからこそ『おおさか魂がさかえた町』です。橋下知事の一方だけが『大阪の教育』と決めてしまうのはこわいことです」と語っています。

こうしたなかで、私のもとにも、「橋下独裁だけは許せない。ぜひ大きな共同を」との市民の声が多数寄せられています。

これまでの政治的立場の違いを超えて、「大阪は独裁・橋下知事に屈しない」などの声が広がり、これが、知事選挙・大阪市長選挙の様相を変えつつあります。ここに示されている確固とした「民意」を、市長選挙の結果に確実に結実させることが何よりも必要です。私と平松氏の得票の合計が過半数に達したとしても、相対的に橋下氏が1位となつて当選することになれば、結果としてファッショ的独裁政治の実現を許すこととなります。

私は何としても、大阪を日本の民主主義を脅かす反動独裁政治の拠点にするくわだてを阻止しようと決意しています。橋下徹氏と「大阪維新の会」によるファッショ的な独裁政治を許さない大阪府民の広範な共同を、党派の垣根を越えてつくり上げるために全力を尽くす決意を重ねて明らかにするものです。